

学校園の健康診断ボランティア



学科・専攻
関西福祉科学大学 健康科学科

担当教員
山本 訓子

連携先

各府県市教育委員会
(柏原市、大阪府、奈良県等)



プログラム内容

健康科学科の養護教諭志望学生が、健康診断の事前準備、実施、事後措置を学校で体験することで、健康診断の実施方法について実践的に学ぶことができ、子ども理解を深めるとともに、教職員との連携や養護教諭の職務について考えることを目的としている。

成果・考察

奈良県は高等学校8校に対して10名が活動を行った。柏原市は小学校9校、中学校5校、計14校に対して参加学生のべ人数は小学校29名、中学校16名の計45名であった。

また、学園内高校に対しては学園内高校の出身者も積極的に参加し、20名が活動を行った。さらに歯科検診の記録係など大阪府立豊島高等学校へ15名が参加した。

ホームカミングデーなどで要望があれば、学生をボランティア派遣できることもお知らせしたところ、卒業生からの依頼もあった。

秋に行われる柏原市の就学時健康診断には、64名が参加した。

健康診断ボランティアを通じて、養護教諭の姿を身近に感じ、大学での学修意欲につながっている姿が見られる。



参加学生から

【1年生】健康診断を受ける側ではなく、運営する側に回るといことは、聞いておくことや覚えておくことが全く違うので、もっとボランティアに参加したい。

【2年生】子ども達の健康を支えるためには、正確な知識だけでなく、関わり方も重要だと改めて学べた貴重な体験だった。安心できる雰囲気作りが子どもにとって大切であると学んだ。

【3年生】歯科検診の記録を通して、奥歯は磨きにくく要観察歯やむし歯が多くあると改めて分かり、保健指導を行う際に指導すべきポイントであると感じた。

【4年生】小学校や高校には健康診断ボランティアに行ったことがあったが、中学校に初めて参加して、小学校とは雰囲気や言葉かけ、保健室の利用状況が大きく異なるということが最も印象的だった。

ボランティア担当から

まだまだ未熟な学生ですが、地域の養護教諭の先生方や児童生徒、保護者にも温かい目で見守られていると感じます。目指す養護教諭像に少しでも近づけるよう健康診断ボランティアを通してたくさんの経験を積んでいきましょう。